**第16課　アサ王の改革**　2018.4.22

◎ 賛美(一同) :韓日389番(聖歌300番)、韓日464番

◎ 信仰告白(一同) : 使徒信条

◎ 御言葉朗読(一同) : Ⅱ歴代誌14章2∼7節

◎ 本文朗読　◎ 主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ

信仰生活の危機は霊的沈滞から始まります。小さな子供が生まれてから成長をしなければ両親にとって大きな心配になるように、私たちの信仰が成長しなければ、霊的沈滞に陥り、信仰生活に大きな危機を経験するようになります。今課では、南ユダのアサ王の宗教改革の話を通して、霊的沈滞からどのようにして抜け出すことが出来るのかを学んでいきたいと思います。

**1. 良いことと正義を行った**

アサ王は、神様が見られるに良いこと、御目にかなうことを行いました(Ⅱ歴代誌14：2)。アサ王は‘神様が私を見ておられる’という意識を持って、正しくユダを治めました私たちは目に見えない神様を見ているかのように、‘神様の前での信仰’を持って生きなくてはいけません。

宗教改革者カルヴァンはこれを‘コラムデオの信仰’と表現しました。たとえ良いことと正義を行うことで、耐えがたい苦しみ、試練、大きな痛みを経験するとしても、私たちは神様の栄光をさえぎる不義の道を選択してはいけません。燃える炎のような目で観察される神様の前で、私たちは何も隠すことが出来ないことを認識しなくてはいけません(詩編139：2～4)。私たちの人格の成熟度は、誰も見ていない所でどのように行うのかによって評価されます。したがって私たちもアサ王のように、いつも神様が見られるに良いことを選択し、正しい道に行かなくてはいけません。そうして神様が見られるに恥ずかしくない人生を通して、神様に認められ、神様を喜ばせるクリスチャンとなるように願います。

**2. 偶像を取り除いた**

アサ王は王位を受けるとすぐに、神様が一番嫌われる偶像を取り除きました(Ⅱ歴代誌14：3)。彼の母であるマアカがアシェラの像を造った時には、彼女を王母の位から退けるほどに、断固として果敢に偶像を取り除きました(Ⅱ歴代誌15：16)。このようにアサ王は私的な人情や血縁にこだわることなく、ただ神様の御言葉に従って改革を推進していきました。

信仰改革は、徹底的な悔い改めによって神様に立ち返り、完全に神様だけを愛し、神様の御言葉に従順することであります。また、信仰改革はまず初めに、自分から徹底的に神様に立ち返ろうとする覚悟と決断がなくてはいけません。個人の信仰が新しくならずには、信仰改革を期待することはできません。私たちがイエス様を信じて後、私たちの人生の中において偶像が何であるのかを探し出し、その高き所を打ち壊すように、その偶像を崩してしまわなくてはいけません。私たちの中にある自我、高慢、不従順の偶像を滅ぼし、欲望、利己主義、自己中心、不平不満の偶像を崩さなくてはいけません。また、福音よりも先になるものが私たちの中にあるのならば、その偶像も取り除かなくてはいけません。そしてただイエス様中心の人生を生きなくてはいけません。

**3. 御言葉を守り行うようにした**

アサ王は、偶像崇拝を取り除くことで終わることなく、ユダの民たちが神様を求め、御言葉を守り行うようにしました(Ⅱ歴代誌14:4)。アサ王はユダの民が、心と精神を尽くして神様の能力と、その御顔を求め捜すようにと強く促し、全てのユダの民が神様を求めることにいのちがけになるようにしました (Ⅱ歴代誌 15:12∼13)。Ⅱ歴代誌15章15節は“ユダの人々はみなその誓いを喜んだ。彼らは心を尽くして誓いを立て、ただ一筋に喜んで主を慕い求め、主は彼らにご自身を示されたからである。主は周囲の者から守って彼らに安息を与えられた。”と語っています。神様を求める人生は、私たちが悪から離れ、神様に向かって方向を転換する人生です。また、神様の御心に従って生きようと決心し、神様に頼り、献身する人生です。私たちが神様を求めるならば、神様が私たちに出会って下さり、私たちの人生を新しくして下さいます。エレミヤ29章 13節は “もし、あなたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう。”と語っています。したがって私たちは義の服を着て、御言葉を守り行い、神様を捜さなくてはいけません。御言葉に従順する人には神様の大きな祝福が臨みます (申命記28:12∼14).

**4. アサ王に臨んだ祝福**

アサ王が神様の前に良いことと正義を行い、偶像を取り除き、御言葉を守り行うと、神様は彼の信仰を尊く見られ、ユダを大きく祝福して下さいました。アサ王は完璧な国防のため、崩れていた城壁たちを再建し、頑丈な城壁を建て、ユダは繁栄を享受するようになりました。

しかしまさにその時、クシュ(エチオピア)の王ゼラフが百万の軍勢と三百台の戦車を率いてユダを攻めてきました。ユダの兵力58万とクシュの100万軍勢との戦争は、ユダには全く勝算がないように見えました。しかし、アサ王はこの危機状況の中で、他の国に助けを要請したり、自分の力に頼ることなく、ただ神様の助けを求めて呼び叫び祈り始めました。すると神様がアサ王の祈りを聞かれ、クシュの軍勢を打たれ、アサ王がクシュの100万軍勢を絶滅させるようにされました(Ⅱ歴代誌14：9～13)。

アサ王の叫びは、この戦争がユダとクシュの戦いではなく、神様とクシュの戦いになるようにしました。このように、まことの信仰は、どれほど大変な状況に置かれようとも、神様に全ての問題を委ね、神様に全的に頼ることであります。

どのような状況でも、神様だけに頼るならば、神様ご自身が戦って下さって、十分に敵に打ち勝つことが出来ます。アサ王が心から神様だけに仕えたので、神様はアサ王の治世の第35年まで、平和を享受するようにされました。したがって、私たちは神様の前で、良いこと、正義を行い、私たちの中にある偶像を取り除き、神様の御言葉を守り行うことによって、神様の下さる平安と勝利と繁栄を享受しなくてはいけません。

**◎マナの要約**

<良いことと正義を行った>

1. アサ王は神様が見られるに正しくユダを治めました。

2. 私たちは神様が見られるに恥ずかしくない人生を生き、神様に認められるクリスチャンにならなくてはなりません。

<偶像を取り除いた>

1. アサ王は王位を受けてすぐに神様の一番嫌われる偶像を取り除きました。

2. 私たちの中にある高慢、不従順の偶像を取り除き、ただイエス様中心に生きなくてはいけません。

<御言葉を守り行うようにした>

1. アサ王はユダの民が神様を求め、神様の御言葉を守り行うようにしました。

2. 神様を求め、御言葉を守り行う者に、神様の大きな祝福が臨みます。

<アサ王に臨んだ祝福>

1. 神様はアサ王の信仰を尊く見られ、ユダを大きく祝福して下さいました。

2. どのような状況でも神様だけに頼るならば、神様が敵に打ち勝つ力を下さいます。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人と挨拶>　1. 神様の前で正しく生きましょう。　2. ただイエス様中心で生きましょう。

3. 神様の御言葉を守り行いましょう。

<祈り>

1. 神様の前で正直でなかった姿があったならば悔い改めの祈りをしましょう。

2. 毎日御言葉を黙想し、御言葉を守り行うことが出来るようにして下さいと祈りましょう。

3. 私たちの全ての敵を退けられた神様に感謝の祈りを捧げましょう。

<とりなしの祈り>　隣の人と祈りの課題を分かち合い、共に祈りましょう。